

行動からもたらされる

結果とゆるし

ビジネスや専門分野のプロフェッショナルとして、また経営者や起業家として、雇用主は日々社員たちと接します。彼らを雇い、仕事と責任を与え、その一人ひとりが割いてくれた時間と能力や才能に対して対価を払います。ですが実際のところ、どれだけ社員たちのことを知っているのでしょうか？

社員のことを知る方法として、学歴や就職など個人の経歴を教えてくれる履歴書があります。また、採用されると、彼らがどのように与えられた担当業務を遂行するか、同僚や顧客とどのように対話するか、そしてどれほど熱心に仕事に向き合うかなど、その行動を観察することもできます。

ですが、それでもまだ本当に社員一人ひとりのことを知っているとは断言することは残念ながら難しいです。忠実に見えても、危機的状況やストレス下、または強い誘惑に直面した場合など、全く別の(本当の)性格が現れます。信頼できると思っていた社員が、突然嘘をついたり、うわさを広めたり、他人を利用したり、盗んだり、または詐欺を犯したりなどして、周囲の信頼を裏切ったら、あなたはどのようにするでしょうか？非常に悲しいことですが、このようなことが実際に起こるのです。

確かに、誰もが従わなくてはならない会社や企業のルールが存在します。違法な行為や、非倫理的であったり、不道德な行為があった場合などは、関連する法律に基づいて裁かれる必要があります。しかし犯罪を犯した疑いのある個人との関係以上に、そのことに対して社内でのように対応すべきかというさらに大きな別の問題があるのです。

このようなことが起こると、私たちはまず精神的ショックを受けて動揺し、失望し、そして怒りが沸き起こるかもしれません。人によっては、

裏切られ、犠牲にされたとさえ感じることもあるでしょう。ですが、私たちがイエス・キリストに従う者であれば、「イエスはこの場合どうするだろうか？」という問いを投げ掛ける必要があります。なぜなら、イエスのこの地上における働きを読めば、いかにイエスが一般的な対応とは違う形でこのような状況に応じていったかわかるからです。もしご自身が怒りで満ち溢れていると感じる場合、聖書の警告を思い起こしましょう：「怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。」(エペソ人への手紙 4:26)。または他の訳で述べられているように、「あなたの怒りで罪を犯さないでください」。

誰かが明らかに規則や法律に違反している場合、懲戒または処罰などの対応が必要です。しかし同時に、贖いが可能かどうか、つまり、寛容さをもって率先して許すことに取り組むべきかどうかを尋ねることも重要です。マタイによる福音書 18 章 21 節 22 節では、彼の弟子であるペテロがイエスにこう尋ねました。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」イエスは答えました、「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」

ですがその御言葉に対して、私たちはまずこう思うのです。「それは確かに人間関係の面においては当てはまるかもしれない。だが今はビジネスについての話しをしているのだ！守らなければならない規則、基準、法律がある！わたしが問題のある人物を許せば、何も変わらず、その人物がまた人やビジネスに危害を加え続けるかもしれないのだ！」と。

確かにそれはそう言えるかもしれませんが。間違った行動は、たとえそれが専門的、社会的、肉体的、あるいは霊的な分野であったにしろ、必ずその行動によって引き起こされた結果をもたらします。受けるべき処罰は、その犯罪性に即したものがほとんどです。また、不正行為を働いた者に対して、彼ら自身が起こした行動の結果から私たちが彼らを防御や保護することはできませんし、そうすべきでもありません。

しかし、天の父から赦しを受けたクリスチャンとして、私たちは同じように周囲の人々を許すように求められています。先ほど引用した聖句の少し前の箇所、イエスはこう言われました。「また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。」(マタイの福音書 18 章 15 節)。

盗んだり壊されたものは賠償して適切な罰則に処されなければなりません。霊的な観点から言えば、その間違っただけの行いも許されることができるのです。もちろん私たちは起こった出来事に対して恨みを抱くこともできますが、許すこともできます。わたしは、許すことを選択します。それはより健康的なことなのです。許すことで、私たちは自由になり、ストレスや恨みから解放され、兄弟を得ることができるのですから。

もっと深めるために:

1. 盗みや不正行為を働いたなどの理由で誰かを解雇しなければならなかったことがありますか？または職場でそのような状況を目の当たりにしたことがありますか？もしあれば、その経験はあなたにとってどのようなものだったのでしょうか？

2. もしあなたご自身の所有物が盗まれたり壊されたりした場合はどうでしょう？そのような経験はありますか？あれば、反射的にあなたはどのような反応をしたのでしょうか？誰がその不正行為を行ったか知っていた場合、その人に対してどう対応しましたか？

3. 今度は逆にご自身を振り返って、誰かに許しを求める(許してもらう)必要があった経験はありますか？それはどのような状況で、どのような対応をあなた自身が受けたのでしょうか。その当時、どのような感情を抱いていたのでしょうか？

4. 今回の月曜のマナではゆるしについて多く学んできました。誰かの不正行為によってもたらされる必要な罰と結果に対して、霊的な行為である和解のステップをどのようにもたらすことができるのでしょうか？許すという行為は、既に行われた間違っただけの行為を忘れるということでしょうか？なぜそう思いますか、または思いませんか？

参考聖書箇所リストです。参照ください: 出エジプト 22:1-15; マタイ 6:9-15, 18:15-35; エペソ 4:31-32; コロサイ 3:12-14

英語版 Monday's Mana は[こちら](#)

この発行はルイス・セルビノ氏によって書かれました。月曜日のマナ®は CBMC が毎週発行しているメールマガジンです。「ビジネスとマーケットプレイスをキリストに」の超教派的働きである CBMC は、1930 年に創立され、世界中で、各業界で働いている従業員や経営者に対してイエス・キリストを宣べ伝える事を目的としています。

©2021 年-この発行の全ての権利はブラジル CBMC・日本 CBMC にあります。